

時^きの動^き

リニア新幹線の問題点は何か？

リニア中央新幹線研究会代表

佐藤 桂子

リニアは危険!!?

リニアは直線を意味しており、「そののけ そののけ リニアが通る」で、どこもこの日本列島には一番不向きな技術です。しかも、世界からは「コストと安全性に問題あり」と撤退されている技術でもありません。液体窒素及び液体ヘリウムによりコイルをマイナス260℃に保ち、磁石を超電導状態にして車体を浮かせて走ります。リニアの車体には超電導磁石が搭載され、走行路と側壁には推進コイルと浮上案内コイルが備え付けられています。運転手はいなく、遠隔操作で動きます。いざ不測の事態が起こったときには、時速500kmで走行していますから、搭乗者の命はほぼ間違いない全滅です。強力な電磁波を磁気シールド

で防ぐようにはされていませんが、目に見えない強力な電磁波が発生していることには変わりはありません。

こんな危険なものを、JR東海と国は、なぜ沿線住民の不安と怒りを振り切って、着工しようとするのか？ ですが、それは葛西敬之 JR名誉会長が、いみじくも気を抜いた場でこぼした「日本経済を立て直すには戦争でもするしかない」という言葉に象徴されているように、自然や命がどうなるうがお金儲けのためには技術の開発の方が大事と言う発想があります。

JR東海が最初に示していた、リニア新幹線の開設の理由づけの三つのうちの①東海道新幹線の需要が増えると②国民がスピードを求めている、の二つが消えて、最後

の一つ③東海道新幹線に何か不測の事態が生じたとき、それに代わるバイパスとして必要であるですが、これがまたリニア新幹線も不測の事態のときに安全である保障がないことが明らかになりつつあります。その点については今回割愛させていただきます。

人の心が壊される

リニア中央新幹線は品川から名古屋まで286kmのうち、大深度地下とトンネルが86%も占め、地上部分を走るそのほとんどは山梨の盆地です。巨大な土管が、学校、神社、市街地、公園、優良農地などを軒並み壊しながら進む大蛇のようなものです。大蛇より性質が悪いのは、そのまま固



2014年9月14日 ストップ! リニア沿線アピール

定されて、リニアのある限り、電気量の大量消費、景観、震動、騒音、電磁波、日蔭巨大建物による風向きの変更など、数え上げればきりが無い問題を生じます。その中でも一番大きな問題は人の心が壊されることです。

未来の世代に、借金だけでなく心を破壊する巨大構造物を残すということは、現代を生きる我々にとって、その倫理観が問われる大きな他人事でない問題を含みます。それにもかかわらず、子どもたちには「リ

ニアは良いもの」という教育が徹底されています。

「全国新幹線鉄道整備法」に則って、リニア新幹線が普通の新幹線と同じルールで適用されているため、沿線住民の説得にJR東海の社員だけでなく県職員や市町村職員まで駆り出されてJR東海の手先の仕事をさせられています。「百害あって一利なし」のこの事業に、住民の命とくらしを守るべき立場の自治体職員が動員されていることは大きな問題です。

リニアの弱点を知って ストップリニアの運動を!

このリニアの欠陥は直線に走るといふこととです。どこか一カ所でもストップすれば、リニア新幹線は、最初の目的がつぶれて作る意味そのものが無くなります。今後、「南アルプスに穴をあけるな!」運動が活発化するでしょう。静岡、山梨、長野だけでなく、世界の貴重な生物多様性を支えている南アルプスの価値はますます高まっていくものと確信しています。

「リニアを原券とセットで外国に売る」という安倍政権及び財界、自民党の野望を、国内外の人たちと手をつないで阻止するためにも、リニアを止めることは必要最小限の仕事と考えています。この秋着工許可が国土交通省からJR東海に対して出される可能性が取りざたされています。

私たちは、あきらめることなく今後も様々な分野の人たちと手をつないで、「あらゆる景観とそこに生きるいのちを壊し、高速性・利便性だけを求めてきたこれまでの生き方を今こそ見直さなければなりません」(ストップ!リニア山梨大会宣言)を胸に、私たちの生き方そのものを問い直しながら、運動を展開していきます。

なお、「ストップ!リニア山梨大会」の動画がyoutubeにアップされましたのでご覧になってください。

1部

<http://youtu.be/Vu1x3U1WZpY>

2部

<http://youtu.be/KMj02Ht9Jfs>

(ついでに)